

■特別寄稿

## 東京八王子から

創価大学看護学部長 中泉 明彦

私は、昨年4月に京都大学医学部人間健康科学科から、創価大学に初代看護学部長として赴任しました。

### 1. 創価大学看護学部の精神と八王子

「創価大学ミッションステートメント」には、「生命の尊厳を守る平和という『大善』に向かって挑戦を続け、いかなる困難にあっても価値の創造をやめない—そうした人格、すなわち『創造的人間』の育成こそ、創価教育の眼目があります。」とあり、「創価大学教員倫理綱領」には「本学は『学生第一』を開学以来の指

針とし、学生のための教育を掲げてきた。教育に携わる教員に求められるものは、これからの時代を担う学生の成長と幸福をひたすら願い、献身することであろう。」とあります。この「『創造的人間』の育成」と「学生第一」が創価大学の精神です。

昨年、看護学部開設に寄せて、創立者は次のような指針を贈って下さいました。

- 一、生命の尊厳を探究する 生涯学びの看護
- 一、生きる力を引き出す 励ましの心光る看護
- 一、共に勝利の人生を開く 智慧と慈悲の看護



写真1. 相看護学部棟全景



写真2. エントランスと指針

日進月歩の医療に携わる我々は生涯学習が重要です。例えば、今は胃潰瘍の治療はピロリ菌の除菌が常識になっていますが、私が学生であった30年前には、胃潰瘍の原因が細菌によるとは考えられませんでした。医療者が、病状、予後などを第三者的・事務的に伝えることで、患者に不安・恐怖・絶望感などを抱かせ、自然治癒力に悪影響を与えることが少なからずあります。励ましの心に溢れた医療者の存在が、患者・家族の苦悩を軽減し、生きる力を引き出すことは間違いありません。医療者自身が、人生の目的観をもち、充実した生活を送っていることが良き医療を行う基盤となります。どちらかが犠牲となることなく、医療者と患者が共に勝利の人生を送ることが重要です。

創価大学のある八王子市は京都から新幹線で2時間の新横浜で乗り換え、横浜線で北上して約50分で着きます。ここから創価大学まではバスで約20分です。

気候は夏暑く、冬寒い京都に似ています。これは地形が、京都に似て、八王子盆地と呼ばれる東にひらけた半盆地状になっているからです。

八王子市は、その周辺部も含め23の大学・短期大学・高専があり、外国人留学生約3,100人を含む約11万人の学生が学んでいる全国有数の学園都市です。

## 2. 一年を振り返って

4月にはアパート生や自宅通学生との新入生会食懇談会に参加しました。創立者から参加した新入生に沢山の激励の品が届けられました。

7月に看護学部開設記念講演会を開催しました。歌手であり教育学博士でもあるアグネス・チャンさんが「みんな地球に生きる人～明るくさわやかに生きる～」をテーマに、貧困と紛争の中で、多くの子どもの命が奪われている現実とご自身のボランティア活動について、更に自身の闘病体験から励ましの看護の重要性を講演しました。講演会には実習施設関係者、市内・近隣市の病院関係者、八王子市関係者、学生・教職員代表、約340人が参加しました。京大からも小西先生と柳本先生が来てくださいました。

11月に東京小平市と大阪交野市にある創価学園での看護学部説明会を担当し、11月に京都市、12月に神戸市・佐賀市・熊本市で創価大学受験生説明会・保護者教育相談会を担当しました。

創立者への名誉称号授与式にも3度参列しました。創立者への世界の大学・学術機関よりの“知の栄冠”は本年度だけでも、南アフリカ クワズール・ナタール大学名誉社会科学博士、タイ タマサート大学名誉哲学博士、アルメニア エレバン国立大学名誉博士、フィリピン 国立アクラン大学名誉人文学博士、中国 大連芸術学院名誉教授、ペルー ペルー・ラス・アメリカス大学名誉博士、モンゴル人文大学 名

誉人文学博士、ロシア プーシキン記念国立ロシア語大学名誉博士の8つに上り、総計345の名誉称号を受けておられます。

京都大学医学部を卒業され、長年に亘って看護教育に携わってこられた京都橘大学健康科学部の林正先生を訪ね、「医師として診療を続けることは看護学部の教育に必ず役に立つ」とのお話を頂き、東京医大八王子医療センター院長高澤先生に京都大学名誉教授藤田先生からご紹介を頂き、本年1月から第4水曜日に内視鏡検査を始めました。また昨年8月から埼玉医科大学総合医療センター消化器内科屋嘉比教授の紹介で東村山市の新山手病院で水曜日に診療を開始しています。宮崎駿監督のアニメ「となりのトトロ」で、サツキとメイの二人が、病院の庭の木の上から、入院中のお母さんの姿を見るシーンがありますが、この病院のモデルが新山手病院です。「トトロの木」が同病院の庭に、「八国山」が病院の裏にありますが、アニメでは「七国山病院」と呼ばれています。私は、同病院で、膵尾部癌の患者さんに3年半ぶりにERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）を行いました。膵管造影を試みるうちに十二指腸乳頭部の粘膜下に造影剤が注入されてしまい浮腫を惹起して膵管開口部が不明瞭になってしまいました。造影剤の注入は看護師さんにしてもらったのですが、強く注入し過ぎていたようです。数ヵ月後、2例目の総胆管結石の症例に対しては、造影剤の注入を自分ですること、検査がうまくいきました。内視鏡検査助手の経験・技術の大切さを再確認しました。レントゲン撮影や透視も放射線技師さんと内視鏡医との呼吸が合わないと、余計な被爆や、絶妙のタイミングのレントゲン写真が撮れないことになり、医療チーム全体の技術力の向上が不可欠であることを痛感しました。

京都大学客員研究員として、齊藤研と共同研究をしています。膵液を用いて遺伝子解析行う「膵癌ハイリスク群におけるリスク増強因子としての喫煙の意義」がテーマです。足立教授担当の「生体防御学」の講義を昨年2回「抗体、補体の役割」と「自然免疫、獲得免疫とは」のテーマで行いましたが、人間健康科学科看護学専攻1年の男子学生数名が最前列で聴講し、質問をしてきた熱心さに感動しました。

## 3. 創価大学看護学部の特徴のひとつ

本学部では、語学力を基盤に、異なる文化、価値観への興味や、相手の気持ちを理解して自分の思いを伝える意欲、すなわち「グローバルマインド」を持った新時代の看護師要請を目指しています。そのためにTOEICのスコアによる習熟度別クラス編成を行い、実践的な英語教育を実施。学内でのネイティブの教員、留学生との交流のほか、希望者には海外の大学と



写真3. 中央教育棟

提携して病院等での研修も提供します。看護師教育で定評のあるフィリピン・キャピトル大学での本年3月2週間の日程で行う研修に一期生83名の内28名が参加しますが、さらに研修先を拡大していく予定です。

#### 4. 将来への展望

創価大学は、創立者が示された建学の精神のもと「学生第一の大学」を基本理念として、学生の主体性を重んじながら、新しき挑戦と創造を続けてきました。一昨年、本学は文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」に採択され、昨秋、地上12階・地下3階の最新鋭の設備を備えた中央教育棟 GLOBAL SQUARE がオープンしました。中央教育棟は「学生第一」の教育環境と学習支援を最大の目的として構想設計され、1000人を収容できる“ディスカバリーホール”、ラーニング・コモンズ“SPACE”、コンビニエン

ストアや懇談スペース“プラット”があり、廊下の両側などに懇談や自習のできるフリースペースもあり、学生の居心地のよい場所がふんだんに用意されています。学生の「能動的な学び」をサポートするラーニング・コモンズは2000m<sup>2</sup>あり、共同学習、語学学習、自習・PCルーム、学習相談スペースが結集されています。さらに本年4月には新たに国際教養学部がスタートします。

全学あげて、学生一人ひとりの可能性を引き出すために、今後も教育プログラムと教育環境の充実に取り組んでいくとともに、人類と社会の未来に貢献するという高い志をもって、創価の看護の良き伝統を築いていきたいと考えています。多彩な個性を持ち、どんな困難にも負けない、命の可能性を信じ抜く看護師の育成を目指していきます。